

タイトル：2021年度 教育セミナー（第17回）

日時：2021年9月16日（木）～19日（日）

オンライン開催

濱中麻梨菜（東京大学大学院総合文化研究科）

まずは、四日間に渡り大変貴重な学びの場をいただき、誠にありがとうございました。

昨今の新型コロナウイルス感染症をめぐる状況下、自身の所属するコミュニティの外に出て人と交流することが困難な中で、オンラインツールを活かし、多様なディシプリンの講師の先生方によるご報告、そして、同世代の他大学の学生のみなさまの研究報告に接することができたのは非常に貴重なことであり、その中で、質疑応答等を通じた大変刺激的な議論に触れることができたのは、大変ありがたい機会でした。

今回本セミナーに初めて参加させていただきましたが、セミナーに出席しての感想ということで第一に実感されたこととしては、講師の先生方や受講生のみなさまのご報告や質疑応答でのやり取りなどを拝見したなかで、質問をする際の着眼点の鋭さというのももちろんそうですが、それだけではなく、とくに資料との向き合い方や研究姿勢に関しては、ディシプリンや研究対象の別を問わず、それぞれの研究者が共通して真摯に向き合う必要性のあることだということに改めて気づかされ、本セミナーを通じた大きな学びの一つとなりました。

また、質疑応答の場面を通じた気づきとして、自身があまり明るくない研究対象あるいは分野というのが大部分を占める中で、それ故に、いかにそれ以外のことに問いを投げかけるかという方向性に向いてしまう傾向が生じてしまうのではありますが、しかし、今後自身に必要なことは、自らの研究関心に軸足を置きながらもいかに視点を変えて事象を捉えることができるかであり、同時に、疑問を出発点にしつつ議論の場をいかに有意義な意見交換の場とすることができるのかが重要であるという視点を見出すことができました。

また、今回のセミナーにおいて八尾師先生が「地域研究ということ」をテーマにご講義くださいましたが、その中での「地域研究とは、ディシプリンというよりは、一種の研究姿勢」というお言葉が強く印象に残りました。と同時に、ディシプリンとどう向き合うかを考えるあまり、ディシプリンというものを確固たるものにしなければならないと、ある種それに固執していたことに気づき、研究姿勢に対する自省の機会ともなりました。

改めまして、この度はこのような貴重な学びの場に参加させていただき、心より感謝申し上げます。ご参加のみなさまとはバーチャルなコミュニケーションとはなりましたが、非常

に充実した四日間を過ごさせていただきました。何より、本セミナー開催に際しまして、お忙しい中にもかかわらず大変にご尽力くださった講師の先生方、FSC事務局の千葉さん、誠にありがとうございました。またの機会に、みなさまと一緒できますことを心待ちにしております。